

大河原町まち・ひと・しごと創生会議「第 1 回会議」内容

日時:令和5年7月 19 日(水)13 時 00 分～15 時 00 分:第1会議室

出席者:創生会議委員 10 名・政策企画課職員

審議事項

(1)第2期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略における令和4年度実施内容及び令和5年度実施予定について(進捗管理シートにより説明後、意見・要望等をいただいた)

委員	意見・要望等	事務局回答等
晋山委員	集会所の改修・整備について、災害対応の防災拠点の意味が強くなっているのを、非常時の在り方を含めて考えていったらよいのでは。	地域コミュニティの拠点とともに地域防災の拠点という観点も含めて改修、持続していきます。
押野委員	新しい特産品が求められているが、桜の枝・廃材を活用した木工製品を作り始めている。桜の染め物もあり、高校生の染め物体験もしている。様々な動きを情報交換して周知したらいいのでは。	観光物産協会と連携して特産品等の把握、周知を進めていきます。
安藤委員	一目千本桜も百年、そして倒木もある。その木を活用して、木のプレートを作ったらどうでしょうか。木目もきれいですし、ふるさと納税返礼品の活用とか、いいのでは。また桜の新たな植栽、河川法で河川敷に植えられないので、別に植える場所は考えているのか。	植樹百年記念もあり、桜の木を活用した商品開発は良い機会と考えます。また白石川右岸河川敷の土手沿いで桜の植栽を検討していきます。
安藤委員	桜の季節は桜と蔵王を入れたロケーションが好まれる。小山田や小高い山に桜があると、白い残雪の蔵王と合うと思う。白石川右岸河川敷から見てもらったら良いと考える。	栲ヒルズの山の桜が大きくなった際に良い景観が出てくると期待しています。更なる桜の景観、必要と考えます。
永沢委員	桜を見に来た観光客 22 万人、梅まつりにも来ている。この方たちにお土産を買ってもらう商業的な戦略が弱いと感じる。	観光体制の課題、シティプロモーションのチャンスでもありますので、観光物産協会と協議していきます。
笠松委員・竹川委員・晋山委員	桜観光の車の渋滞が問題。今年はすべて満車になった。観光客の車の受入体制の話がずっと進まない。シャトルバスで運ぶ、障がい者の方の対応、住民駐車場の貸与など様々な意見も出ているが、駐車場の確保を考えてほしい。	オーバーツーリズム状態、10日間だけの観光地対応に苦慮しています。白石川右岸河川敷等整備で新たな拠点が整備されれば、駐車場の分散や通年観光の可能性も出てきます。

(2)大河原町長期総合計画・後期基本計画策定に係る地区懇談会資料について(資料により説明後、意見・要望等をいただいた)

委員	意見・要望等	事務局回答等
晋山委員	一目千本桜ブランド化に関して、桜の倒木、剪定枝を使ってスマートフォン商品を開発している。この夏、(株)ヒルズのハム・ベーコンを使った商品化も考えている。地域をあげた商品開発には知財が必要。「白石川堤一目千本桜」を柴田町と共同で商標登録されてはどうか。	商標登録は商業戦略ともなりますので、観光物産協会、柴田町との連携の中で議論していきたいと考えます。
安藤委員・桜井会長	桜を見に来る観光客の案内、シティプロモーション、渋滞、安全対策、土産、イベント等の対応について、将来的にこうやっていかないと、という課題解消をしていかないと、ブランド化にならない。	現状、20 万人以上が訪れる体制として受入スタッフが圧倒的に少ない。商工会、観光物産協会等とともに柴田町と連携し、一つずつ課題をクリアしていくしかないと思います。
晋山委員	国で DX を言うときに「誰一人取り残さない」というが、スマートフォンを活用した、国仕様の環境下になればできるという趣旨のようだが。高齢の方はうまく扱えない、耳の遠い方は FAX の方が活用しやすい、見比べる時には紙の方が見やすい、つまりスマートフォンやパソコン、タブレットがあるから DX ではなく、業務が円滑にいく在り方に展開していくのが DX と思う。オンラインになるのが DX になるようなとられ方でなく、すべてに対応できるように、いろいろなあり方を考えることが自治体には大事かと。	行政手続きのデジタル化を進めても、すべての方に理解いただくのは時間がかかると思います。年齢など様々な配慮、対応の在り方を考えていく必要があります。DX の視点、参考にさせていただきます。
晋山委員	スマートフォンの使い方は慣れる必要はある。常設の相談所があったらいいと思う。お年寄り向けに簡単な使い方を教えてくれる予算をつけてくれると、地域の方にとってはいいかなと。	ここに聞けば教えてくれる場所があれば安心につながりますし、敷居を低くして対応が必要と考えます。